

月刊相撲



—岩壁峻撮影

おかみさん

リレーコラム

8人全員「部屋の子ども」

昨年9月の秋場所で逸ノ城が新入幕で13勝を挙げてからは、怒濤(どとう)の

日々でした。マスコミ対応などに追われ、振り返る余裕もありませんでした。ただ、これも逸ノ城が一生懸命頑張った結果。私が見る

限りでは彼が横柄な態度を取ることはありません。

周囲の人たちには「環境が変わったのでは」と思われるかもしれませんが、なるべく今まで通りでいようと心がけています。逸ノ城の取組はテレビの生中継で見ますが、「どうかかな?」

とときどきしながら、他の力士の結果をインターネットで確認する習慣は何一つ変わっていないですね。

私自身、医師としても勤務していますが、常勤していた病院を9月いっぱいまで辞めました。10月から週に2〜3回ほど、東京都内な

みうら・まこと 福島県出身。両親、姉ともに医師という家庭で育つ。専門はめまいや難聴などを診療する神経耳科。埼玉医大大学院に在学中、大学病院に力士の見舞いに来た湊親方(元前頭・湊富士)と出会い、2001年に結婚した。

三浦 真さん(44)

湊部屋

どで健康診断を行っているます。それまでは部屋の仕事を手伝ってくれる人がいても、お願いしたいことを仕分けすることもできない状況でした。逸ノ城に割く時間が多く、他の力士とも接する時間を増やしたいという思いもあったので、いったん仕事を整理する形がいいと考えたのです。

中学2年の長女、小学3年の長男には甘えっぱなしですね。地方場所開催中の週末は、ほとんど現地に行っているのでも触れ合うことができませんが、特に長男は「逸ノ城が頑張ってくれらるなら……」と我慢してくれ

ます。私が地方場所まで出かけている際には、ご近所の方にも花の水やりや玄関の掃除をしてもらい、お世話になっています。

部屋には力士が8人いますが、ほとんどが中学卒業後に入門してきました。10代の力士は、かっこつけたいと思う年ごろ。そういう気持ちは大切にしつつ、言葉遣い、態度などで調子に乗ったらガツンと言いますよ。長女も長男も合わせ、全員が「部屋の子ども」という意識です。

最近では逸ノ城の体重ばかりが話題になります。「あと10キロくらいはやせてほしいな」とは思うものの、彼もプロ。自分のことは自分で分かるはず。「甘い」と思われるかもしれませんが、「まあ、いいんじゃないの」と見守ることにしています。